

伊予富士



寒風山、笹ヶ峰方面

桑瀬峠 1451m

旧寒風山トンネル
昭和39年完工。
944m。

寒風茶屋

登山口

岳人にてぞわろ

ミカヤハハハ
石の木の根の階段

桑瀬峠

桑瀬峠は西のシラサ峠と並んで、その昔より本郷から伊予西条に通じる往還道であり、別子銅山に製錬用の炭を運ぶ産業道でもあった。土佐と伊予を行き来することから桑瀬には「境目新」が設置されていた。桑瀬の商圏は西条を中心として発達し、塩や魚も伊予から持ってきていた。桑瀬からはカジ、シラサ、養などが送られた。伊予の品物は土佐で買うより安く、物資の交流が峠を越して行なわれた。製炭は別子銅山との関係が深く盛んに行なわれ、峠付近には炭の集積中継所である「中宿」があった。

桑瀬

その昔、桑瀬啓助という落人が開いた「工地」といわれている。明治33年、大きな津波によって押し流され、約半数の人たちが故郷を捨てて九州の炭坑に移住したという記録が残っている。



小麦畑から工小屋まで総延長30キロの「国境歩道」が「人と森林のふれあいの場」として昭和初期に高知営林局によって開設された。

春にはアケボノツツジが見える

樹林帯
このくぼみがいい感じだ
樹林帯と開けた開放感

緑色の稜線

東側は桑瀬峠と寒風山や笹ヶ峰が印象的に見える。

瀬戸内側と太平洋側で季節も天気も分かれる。

三百名山

三叉三角点

ササがサササと音をさせて鳴る



伊予富士

伊予富士

1756m

9km表示

南側は高知の山々が一望

登山口

グアツ

谷

UFOラインから伊予富士と見とれる。雲が刻々と姿を変えて流れていく。雲を見るだけでなく、おもしろい。2022.11.4

特徴ある北尾根の岩峰群の連なりが伊予富士と遠くからでも目立させている。

土予国境稜線。点在する1700m以上の山が連なり、快適な縦走路が続く。

麓へ続く稜線

ここ32.3kmは13.5km足元注意

東黒森分岐

竹の斜面

ふることの富士

「富士」は全国各地にあり、それぞれの地域に「郷土富士」がある。日本一、秀麗な富士山に山容が似ていたり、歴史的に何らかの関係があったり、その土地を代表する山に「富士」を付いて「ふること富士」とも呼ばれる。

北海道から沖縄、さらには外国にも多くの「富士」を冠する山がたくさんある。四国も伊予富士をはじめ讃岐富士、阿波富士、土佐富士(物部白根山)は正に富士と呼ぶのも可いなどたくさんあり、地元の人々から親しまれている。

UFOライン

町道瓶ヶ森線。「雄大な峰が続く」ということから「雄山ライン」と呼ばれてきたが、登山者がここから撮った写真にUFOが写っており「UFOライン」が定着する。旧寒風山トンネル入口から石鎚山に向けて延びる約27kmの赤色景道ライン。バイクや自転車も多く、老若男女に愛されている。11月～4月中旬、冬期通行止め。

山の天気は一日七度変わるといわれる。深い谷から湧き出る霧、雨、霜、冷たい風と雲。気温も上下する。天気のよい日も油断なし。

寒風山登山口から伊予富士へ登り、伊予富士登山口へ下り、UFOラインを歩いて寒風山登山口へ戻ると9km、約2時間かかる。景色がよいからこれば良し。



今回は自転車に乗ってラクチン

いっだってどこにいたって
はてしない空を
風は歌ってゆく
今だけの歌を
道の向こうへ出かけるよう
今が通り過ぎてゆく前に
「愛と風のように」
ケンとメリーのスカイラインsong
UFOラインもスカイラインだ。
長い泳いもある

朝がきたら出かけよう
山の道具をバックにめく

今が通り過ぎてしまふ



伊予富士は独立山峰でもなく、グアツにあって富士山には似ていないけれど、西条市と隣の町の長沢山から富士山が見えるポイントがあるといわれる。(高知県の山より)

